



# 隣に伝えたい 新たな言葉と概念

## 【藤島摂食・嚥下能力グレード】

英 fujishima dysphagia scale FILS

類 FOIS DSS

〈解説〉

この評価は1993年に藤島 一郎氏((現)浜松市リハビリテーション病院院長)を委員長として、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会によって提唱された摂食・嚥下能力の評価(簡易版)グレードである。この評価はゴール設定や訓練効果判定に用いられている。評価内容は「できる」(=能力)ことを中心にした内容となっており10段階(Gr. 1~Gr. 10)で示される。

摂食・嚥下能力のグレードは1993年に発表されて以来様々な学会や、論文に活用されてきた。しかしながら治療目標を明確にして具体的な患者指導に使用していくためには、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査などを加えた判断まで必要とされる場合も出てくる。

一方「している」(=実行状態)をそのまま評価するという視点で、グレードに準じて摂食・嚥下障害患者における摂食状態の「レベル」が作成され検討が加えられている。

この摂食状況を調べる「レベル」は、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査の行えない施設や在宅でも、使用可能なツールでもある。これらの詳しい内容を以下に示す。

摂食・嚥下能力のグレード

|       |             |       |                           |
|-------|-------------|-------|---------------------------|
| I重症   | 経口不可        | Gr.1  | 嚥下困難または不能<br>嚥下訓練適応なし     |
|       |             | Gr.2  | 基礎的嚥下訓練のみ適応あり             |
|       |             | Gr.3  | 条件が整えば誤嚥は減り、嚥下訓練は可能       |
| II中等症 | 経口と<br>代替栄養 | Gr.4  | 楽しみとしての摂食は可能              |
|       |             | Gr.5  | 一部(1-2食)経口摂取が可能           |
|       |             | Gr.6  | 3食経口摂取が可能だが代替栄養が必要        |
| III軽症 | 経口のみ        | Gr.7  | 嚥下食で3食とも経口摂取可能            |
|       |             | Gr.8  | 特別嚥下しにくい食品を除き3食経口摂取可能     |
|       |             | Gr.9  | 常食の経口摂取可能<br>臨床的観察と指導を要する |
| IV正常  |             | Gr.10 | 正常の摂食・嚥下能力                |

※介助が必要な場合はAをつける(例:7Aなど)。

藤島一郎:脳卒中中の摂食・嚥下障害, 医歯薬出版, 1993より一部改変

摂食・嚥下障害患者における摂食状況のレベル

|                       |           |        |                                      |
|-----------------------|-----------|--------|--------------------------------------|
| *摂食・嚥下障害を示唆する何らかの問題あり | 経口摂取なし    | Lv. 1  | 嚥下訓練*を行っていない                         |
|                       |           | Lv. 2  | 食物を用いない嚥下訓練を行っている                    |
|                       |           | Lv. 3  | ごく少量の食物を用いた嚥下訓練を行っている                |
|                       | 経口摂取と代替栄養 | Lv. 4  | 1食分未満(楽しみレベル)の嚥下食*を経口摂取しているが代替栄養*が主体 |
|                       |           | Lv. 5  | 1-2食の嚥下食を経口摂取しているが代替栄養が主体            |
|                       |           | Lv. 6  | 3食の嚥下食経口摂取が主体で不足分の代替栄養を行っている         |
|                       | 経口摂取のみ    | Lv. 7  | 3食嚥下食を経口摂取している<br>代替栄養を行っていない        |
|                       |           | Lv. 8  | 特別食べにくいもの*を除いて3食経口摂取している             |
|                       |           | Lv. 9  | 食物の制限はなく、3食を経口摂取している                 |
|                       |           | Lv. 10 | 摂食・嚥下障害に関する問題なし(正常)                  |

\*摂食・嚥下障害を示唆する何らかの問題:覚醒不良, 口からのこぼれ, 口腔内残留, 咽頭残留感, むせなど

嚥下訓練:専門家, または良く指導された介護者, 本人が嚥下機能を改善させるために行う訓練

嚥下食:ゼラチン寄せ, ミキサー食など, 食塊形成しやすく嚥下しやすいように調整した食品

代替栄養:経管栄養, 点滴など非経口の栄養法  
特別食べにくいもの:パサつくもの, 固いもの, 水など

藤島一郎 大野友久他「摂食・嚥下状況のレベル評価」簡便な摂食・嚥下評価尺度の開発. リハ医学 43: S249, 2006

引用:日本摂食・嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会 jsdr@fujita-hu.ac.jp

参考:藤島一郎, 脳卒中中の摂食・嚥下障害, 東京; 医歯薬出版, 1993.

(国立病院機構東京医療センター リハビリテーション科 理学療法士長 廣島 勉)

本誌550pに記載